

英語

1

解答

問1. エ 問2. イ 問3. ウ 問4. ア 問5. イ
問6. ウ 問7. オ 問8. ウ 問9. ア 問10. ウ

問11. エ 問12. エ 問13. 3番目:ア 6番目:カ 問14. (設問省略)

全訳

《ぼくとジュディの物語》

- ① 彼女がちょっと可愛くて背が高すぎないことのほかに、ぼくがジュディ=フランダースを好きな理由の一つは、優しく、それにもかかわらずぼくを含めみんなに話しかけるところだ。理科の授業のときに彼女はぼくの隣に座り、そして時々ぼくは彼女を笑わせる。例えばある時フォレスター先生は水を凍らせて、そしてそれをまた溶かすというかなり馬鹿げた科学的実演をしていた。そして彼女がやっと終わって教室が静かになったとき、ぼくは言った。「フォレスター先生、つまり、先生の言っていることは、氷というのは実は…凍った水ということですね！」フォレスター先生以外のみんなは大笑いした。彼女の顔は本当に真っ赤になって、ぼくにキンセラ先生、つまり教頭先生のところに行くように言った。彼はぼくにいつもと同じように、ピエロになるのに頭脳を浪費するのはやめるべきだと説教して、そして重さが67ポンドくらいあるアイオナ・カレッジのリングをしている手で私の頭をごつんと叩いた。キンセラ先生はぼくのことを少し気に入っていると思うのだが、彼は自分の仕事(=ぼくを叱ること)をしないとイケないのだ。
- ② とにかく、その日しばらく経って、ジュディ=フランダースと廊下ですれ違くと、彼女はぼくがフォレスター先生に言ったことがとても面白かったと言った。ぼくはまさにそのときなにか面白いことを考えようとしたが、馬鹿みたいに微笑んで、「あー」と声を出すことしかできなかった。後になって、言えたであろうたくさん面白いことを思い付いたが、ジュデ

イ=フランダースはそのいずれも聞くことはなかった。彼女が聞いたのは「あー」だけだ。

- ③ 皆さんがまだ気づいていないかもしれないので言うけれども、ぼくはジュディ=フランダースのことをよく考えている。時々、学校に歩いていくときに、ぼくたちがするかもしれない一連の会話を想像して、それによって彼女を笑わせることができるだろうと（想像する）。

（中略）

- ④ しかしぼくは時々キャンティーンでのダンスにジュディを誘う。キャンティーンとは、ぼくたちが非行少年少女にならないために、金曜日の夜にウェイン・C・ファーマン・ジュニア・ハイスクールで行われるアスコントの子どもたちのための施設だ。入場には50セントかかる。最初の1時間は男子全員が体育館に行ってバスケットをしたり、またはただぶらぶらし、そして女子全員はカフェテリアに行ってレコードに合わせてテンポの速いダンスを踊る。それから男子はカフェテリアに入って、たいていは女子が速く踊るのを見ながらボーっと立っている。一部の男子は速く踊り、残りのぼくたちが彼らをからかう。でも本当はぼくたちも踊れたらいいのにと思っている。ぼくもある速いダンス、ツイストができるが、それはただ足を前後に回転させるだけなので結構簡単だ。ぼくはそれをバスルームで鏡を見ながら家で学んだ。しかしぼくは臆病なあまり、それをキャンティーンですることはできないでいる。

- ⑤ その夜の終わりにスロージョウダンがある。その時はより多くの男子が踊る。ぼくはいつもジュディ=フランダースと踊ろうと試みる。一度彼女と「Put Your Head on My Shoulder（ぼくの肩に頭を預けて）」の曲に合わせて踊ったことがあって、最後のあたりで、彼女はなんとぼくの肩に少し頭をのせてくれたのだ。あれはこれまでで最高のダンスだった。しかし、ジュディは優しく誰とでも踊るし、そんなことを一部の可愛い女子は絶対にしないので、彼女はとても人気がある。なので、たいていは彼女とも踊りたがる多くの男子が他に大勢いるので、ぼくには必ずしも順番が回ってくるとは限らない。彼女とよく踊る1人の男子がいて、それはカイル=デッカーだ。彼は昨年カリフォルニアからアスコントに引っ越してきて、運動が本当に得意だ。ぼくはそうじゃない。彼はいつもキャンティーンでジュディをダンスに誘い、2人がダンスすると誰かがぼくのお腹をこぶし

で殴ったように感じるのだ。ジュディがぼくよりも彼のことを好きかどうか知っていれば良いのだが、わかるはずもない。

解説

問1. 第1段第3文 (Like one time …) に「水を凍らせてから溶かして水にするという馬鹿みたいな実験」とあるので正解はエ。

問2. 「彼 (教頭先生) の仕事」というのは、主人公にいつもと同じ説教をして頭を叩くことである。よってイが正しい。イ以外の選択肢は彼の仕事とは言えないものである。

問3. ここでの right は「まさに」という「強調」の副詞。right then で「まさにその時に」

ア. Look right at the next corner は「次の角で右を見て」という意味になり、right は「右」という意味で使われている。

イ. 「ブライアンは素早く正確に宿題をするように言われた」ここでの right は「正確に」という意味。

ウ. 「君が入ってくる前に、サミュエルはしばらくの間ぼくのすぐ後ろでじっと立っていたんだ」 right behind me は「私のすぐ〔まさに〕後ろ」を意味する。right は「すぐ、まさに」という強調の意味で使われているので下線部(3)と同じ用法と考えられる。よってこれが正解。

エ. 「ジョンが論文でいくつかスペルミスをしたので、私が彼 (のミス) を正した」ここでの right は「正しく」という意味。

問4. 下線部(4)の文章では主人公がジュディのことをたくさん考えていることを主張している。ここでの you は読者を指している。in case you didn't figure that out yet というのは in case SV 「万が一 S が V する (である) といけないので」という表現であることから、「あなたはまだわかっていないかもしれないが」と解釈できる。この文を入れることにより主人公がジュディのことをよく考えている (= 恋心を抱いている) ことを読者に強調している。よって、ア. 「あなたはぼくがジュディのことをよく考えていることをまだわかっていない」が正解。ちなみに in case は if に置き換えることもできる。例: In case [if] you didn't know, it will rain today. 「知らないかもしれないから言うけど、今日は雨が降るよ」の意。「念のため、一応」などの意味を含んでいる。

問5. 関係詞の用法を問う問題である。空欄直後の文 (I would make

her laugh) は完全な文になっているので、空欄には関係副詞が入ることがわかる。よって選択肢の中で唯一の関係副詞であるイの where が正解となる。

問6. 第4段第2文 (Canteen is this thing …) でキャンティーンがどのようなものであるか説明されている。よってウが正解。ちなみに、this thing の this はくだけた意味で定冠詞 a の強意形である。話者にとって既出の事のような感覚を表す。例：I met this woman yesterday. 「昨日ある女性に会ったんだよ」

問7. 下線部(6)を含む文章に「一部の男子はダンスをして、その残りは…」とあるのでダンスをしていない者たちを指す。rest という語は「休息」という意味以外に「残り (の人・物)」という意味もあることに注意。make fun of A 「A をからかう」も覚えておきたい。よってオが正解。

問8. wish は「～だったら良かったのに」などと仮定の願望の意味を強く含み、その後ろの節では過去形か仮定法過去完了を使う。節内に注目すると、主語の we と空欄直後の dancing を結びつけることができるのは選択肢の中でウの were だけである。

問9. ここでの it が指すものはその前の文で述べられている the Twist であることが文脈からわかる。独学で得たツイストを披露する勇気がない主人公の心情が描写されている。よって正解はア。

問10. 直前の文にジュディと踊った時、主人公の肩に彼女は頭を置いたとあり、主人公はそれについてとても喜んでいたことがわかる。よって空欄Cにはポジティブな言葉が入る。選択肢を見るとウのみが「最高の」というポジティブな意味をもつので正解はウ。

問11. 下線部(8)において not always という表現が使用されていることに着目する。これは「必ずしも [いつも] ～とはかぎらない」という部分否定の意味を持つ。つまり「一緒に踊れるときもあればそうでないときもある」ということである。よってエ。「ぼくがジュディ=フランダースと踊りたいと思う時はいつでも、彼女と踊れない可能性がある」が最も近い。

問12. 下線部(9)の直後の文章に he's really good at sports. Which I'm not. とあるのでカイル=デッカーは主人公と違ってスポーツが得意だということがわかる。よって正解はエ。ちなみにこの2文は he's really good at sports, which I'm not (good at). という1文と同意である。文学作品

等では本文のように2文に分けて表現することがある。

問13. このような長い文を完成させる語句整序問題は「意味のかたまり」ごとに組み立てていくと解きやすいことが多い。つまり、「2人がダンスすると」(when they dance), 「だれかがぼくのお腹を殴った」(somebody punched me in the stomach), 「ように感じる」(it makes me feel like) のように分けて考える。合わせると (when they) dance it makes me feel like somebody (punched me in the stomach.) となる。よって3番目にくるものはアの makes, 6番目にくるものはカの like である。気をつけたい表現として feel like S V 「SがVする〔である〕ように感じる」と punch A in the stomach 「Aのお腹を殴る」がある。

2 **解答** 問1. ウ 問2. イ 問3. ア 問4. ウ 問5. エ
問6. 3番目: キ 6番目: ア 問7. エ 問8. ウ
問9. ア 問10. イ 問11. ウ 問12. エ 問13. イ・カ
..... 全訳

《プラスチック問題への取り組み》

- ① 先週水曜日, 175カ国を代表する人々が, プラスチックの問題に取り組むため歴史的な合意に達した。この取り決めは, 世界中のプラスチック汚染を一掃するのに役立つ可能性がある条約につながり, 将来的に新たなプラスチックに制限を設けさえするだろう。
- ② その新たな取り決めは実際のところ, 「協定を結ぶための合意」に近いものである。世界の指導者たちは第5回国連環境総会 (UNEA) で, 2024年までにプラスチックに関する新しい条約を作り, 署名することに合意した。その新しい条約はプラスチック廃棄物を管理するのに役立つ国際法を生み出すことになるだろう。
- ③ プラスチックは非常に多くの用途に有用なものなので, 私たちの生活のほぼすべての領域における一部となっている。どこを見ても必ず何十個というプラスチック製品を目にする。多くの場合, 私たちが着ている服を見るだけで十分にそのことがわかる。
- ④ UNEP (国連環境計画) は, 現在4億トンのプラスチックが毎年生産されていると報告している。それは1年に, 8000億ポンド (3628億7400万キログラム) の新しいプラスチックに相当する。2040年までにその数は

2倍になると予想されている。それにリサイクルに関する多くの話題があるにもかかわらず、これまでに産み出されたプラスチック全体のたった9パーセントしかリサイクルされていないのである。

- ⑤ ほとんどすべてのプラスチックは、何らかの種類の油から作られている。このようにして作られたプラスチックは生成される時や、または燃やされたり地中に埋められる際に危険なガスを放出する。プラスチックは、世界の温室効果ガスのうち、4.5%を産み出している、と科学者たちは言っている——つまり気候危機を推し進めているガスである。
- ⑥ プラスチックは（木材などの）自然素材のように分解しない。代わりに、どんどん小さな破片に分解されるだけだ。そして私たちの世界を満たしているプラスチックが分解されると、それらは新たな問題を産み出す——つまりマイクロプラスチックだ。
- ⑦ マイクロプラスチックは小さな破片や糸状のプラスチックで、多くの場合、小さすぎて見えない。近年では、マイクロプラスチックは、北極から南極に至るまで、あるいは地球上で最も高い山の頂上から、海の最も深いところに至るまで、ほとんどすべての場所で発見されている。それらは人間を含む動物たちの体の中でさえ見つかっている。
- ⑧ 新しい協定は、製造、再利用、リサイクル、廃棄を含む、プラスチックの「ライフサイクル」全体を網羅することが期待されている。この条約は、海洋や陸地、そして私たちが口にするものに存在するマイクロプラスチックへの対処法も包含しなければならない。また、使い捨てプラスチックをなくすことを目的とした規則も定められることになっている。
- ⑨ 現在の合意に至るのは容易ではなかった。それはルワンダとペルーによって提案された考えに基づいており、多くの国が自国の立場を合わせる必要があった。
- ⑩ 次の段階——つまり新しい条約に取り入れる具体的なルールや目標を決めること——は恐らくより一層難しいものになるだろう。最終的な合意は、条約の目標を達成するために、すべての国に独自の措置を講じることを求めることになるだろう。条約の最終版は、おそらく、貧しい国々が目標達成できるよう資金を提供するものだろう。
- ⑪ 新たな条約はまだ存在していないにもかかわらず、多くの人々はこの前の水曜日に起きたことを、気候危機に取り組むことを目的とした2015年

のパリ協定以来、最も重要な環境協定だと考えている。

解説

問1. put limit on A「Aに制限を設ける」 選択肢の中で一番近い意味をもつのはウの restrict「～を制限する」である。

問2. 下線部(2)における「協定を結ぶための合意」の具体的内容が直後の文で述べられている。よってイが正解。アの「プラスチックゴミを管理することに合意した」とは書かれていない。ウの「プラスチックゴミを埋め立て処理しないことに合意したこと」、エの「新たにプラスチックを生産するときに、他の出席国の同意を得ることに合意したこと」はいずれも本文中に記述がない。

問3. 下線部(3)のある第3段 (Because plastic is …) ではプラスチックはとても身近なものであり、どこを見てもプラスチック製品があると書かれている。下線部(3)の直訳は「多くの場合、私たちが着ている服以上のものを見る必要はない」であるが、これは言い換えれば「私たちが着ている服を見るだけで十分にそのことがわかる」ということであり、私たちが着ている服にプラスチックが多用されていることを表している。よってこの内容を含んでいるア、「プラスチックは私たちが着ている服に使用されていることが多い」が正解。ウにある be suitable for A「Aに合う」は類出熟語なので覚えておきたい。

問4. 空欄Aの直後には、there's a lot of… と、only 9% of all… という2つの文があるので、空欄Aにはそれらの文を繋ぐ接続詞が入ることがわかる。問題を見るとすべての選択肢が接続詞的役割をもっているのですがこの段階で絞ることはできない。次に意味で答えを導こう。「リサイクルについてたくさん話がある」という肯定的内容の文と「生産されてきたプラスチックの中でたった9%のみがリサイクルされている」という否定的内容の文は逆説的な関係にある。選択肢の中で逆説的意味を持つものはウの even though～「～にもかかわらず」のみである。

問5. 「このようにして」や「そのようにして」などの表現においては、その前に具体的内容が述べられている。下線部(4)の直前の文に「ほとんどすべてのプラスチックは何らかの種類の油でできている」とあり、エが正解となる。

問6. まず、この文は Scientists say で始まっていることから、その後

は that 節が続く可能性が高い。that が選択肢にないことから省略されていることがわかり、S V… から始まる文を作る。よって、plastics are… となり、さらに形容詞句 (be) responsible for A 「A に責任がある、A の原因である」が続く。「世界の温室効果ガスのうち、4.5%」は 4.5% of the world's (greenhouse gases.) と表現できる。よって、plastics are responsible for 4.5% of the world's (greenhouse gases) となる。3 番目にくるものはキ. responsible, 6 番目にくるものはア. of である。

問7. as には複数の意味がある。下線部(6)の as は後ろに SV で始まる完全な文が続いていることから接続詞として使われていることがわかる。接続詞としての as は「～なので」、「～のとき」や「～につれて」といった様々な意味を含んでいる。ここでの as を含んだ意味は、「そして私たちの世界を満たしている（に溢れている）プラスチックが分解されると、新たな問題が発生する」となり、「～すると、～するとき」という意味を持つ。アでは as ~ as… 「…と同じくらい～」という同等比較表現として使用されており、「ジョンはビルと同じくらいの歳だ」となる。イは「ギルは病院の看護師として働いていた」となり、as は「～として」という意味になる。as の後ろに名詞がくる場合「～として」と訳されることが多い。ウの as it is は「そのまま（の状態）で」という表現で、「本をそのままにしておいて」という意味になる。エの as は後ろに続く I entered the house と I saw something strange の2つの完全な文を繋ぐ接続詞としての役割を果たしていることからエが正解。意味は「私が入った時、奇妙な物を見た」となる。

問8. too ~ (形容詞) to do は「～すぎて…できない」という頻出表現である。選択肢の中で同じ意味を表すのは so ~ that… 「とても～なので…」という表現を使ったウ。「とても小さいので、それらを見るのができない」である。

問9. the whole plastic “life cycle” の具体的な要素が空欄の後にいくつか述べられていることから「～を含む」を意味するア. including が入る。この including は前置詞である。

問10. single-use は「1回のみ使用の、使い捨ての」という形容詞である。環境問題が注目される近年、使用頻度が増えてきた単語である。覚えておきたい。よって、イ。「ただ一度だけ使用されるプラスチック」が最もふ

さわしい。

問11. 下線部(9)の直後にダッシュがある。このダッシュは前の単語 (The next step) を詳しく説明するために挿入されているもので、その後に具体的な説明がくる。ダッシュとダッシュの間の文を見てみると、「新しい条約に盛り込む具体的なルールと目標を決めること」とあるのでウが正解。go in the new treaty「新しい条約の中に入っていく」=「新しい条約に盛り込む」と考える。

問12. think の直後なので that 節 (that SV) がくる可能性が高い。that が省略される可能性も視野に入れること。また、空欄Cの直後 happened last Wednesday is の部分に注目。is の前の語句が主語を構成していることがわかる。つまり空欄Cには happened last Wednesday が後に続く名詞句を作れるような単語が必要である。アの that を接続詞と考えて入れるとその後に主語となる名詞句を作ることができない。イの whose は関係代名詞であり、その直前に必要な先行詞がない (また、whose の後には名詞がくることがほとんどで happened last Wednesday には繋がらない) ため、正解ではない。ウの when を入れた場合、when happened … となり、主語がない不完全な文になってしまうので不適切。エの what は先行詞を含む関係代名詞で what happened last Wednesday とすることで「この前の水曜日に起こったこと」という主語となる名詞句が作れる。よってエが正解。オの why は when と同様、主語がない不完全な文になってしまうため不正解。

問13. ア. 第4段第1文 (The UNEP …) に「国連環境計画は現在、4億トンのプラスチックが毎年生産されていると報告している」とあるので「年間400万トン」は本文の内容に合致しない。

イ. 第4段第3文 (By 2040, that …) を参照。「2040年までにその数は2倍になる見込みだ」とある。その数というのは直前の8000億ポンド (3628億7400万キログラム) というプラスチックの生産量のことを指す。よって本文の内容に合致する。

ウ. 第6段第1文 (Plastic doesn't "decompose" …) を見るとプラスチックは木材などの自然素材のように分解しないとある。「プラスチックは自然に分解する」が本文の内容に合致しない。

エ. 第7段最終文 (They've even been …) に「マイクロプラスチック

は人間を含む動物の体内にすら見つかっている」とある。ここでの they はマイクロプラスチックを指している。「動物の体内では見つからない」が本文の内容に合致しない。

オ. 第9段第1文 (Reaching the current…) を参照。そこに「現在の合意に至るのは簡単ではなかった」とあり、「それほど難しくなかった」というのは本文の内容に合致しない。

カ. 第10段最終文 (The final version…) に「条約の最終版はおそらく、貧しい国々が目標達成できるよう資金を提供するだろう」とあり、本文の内容に合致する。

キ. 最終段 (Even though…) に2015年のパリ協定について「気候危機に取り組むことを目的とした」とあるので、「プラスチック問題に対処するためにのみ策定された」というのは本文の内容に合致しない。

3 解答 1－エ 2－イ 3－ウ 4－ア 5－イ 6－エ
7－ウ

解説

1. どの選択肢にも cause が含まれており、この動詞が鍵になることがわかる。しかし、疑問文の形で考えると難しい問題である。よって、まず肯定文に直して考えるとわかりやすい。例えば「彼の不注意がその交通事故を引き起こした」という文を作ってみると、His carelessness caused the traffic to occur. となる。cause A to do は「A が～する原因となる」という表現である。次にこれを受動態の文に換えると、The traffic accident was caused to occur by his carelessness. となる。そしてこれを疑問文にすると Was the traffic accident caused to occur by his carelessness? である。最後に、his carelessness を疑問詞 what に換えてそれを文頭に持ってくると What was the traffic accident caused to occur by? となり、エが正解となる。

2. 原則として次のような基本文を覚えておくと同様の問題を解く際に役立つ。

(1) I have no more than 10,000 yen.

「私は1万円しか持っていない」 no more than は only と同意である。

(2) I have no less than 10,000 yen.

「私は1万円も持っている」 no less than は as much as と同意である。

(3) I have not more than 10,000 yen.

「私は多くても1万円しか持っていない」 not more than は at most と同意である。

(4) I have not less than 10,000 yen.

「私は少なくとも1万円は持っている」 not less than は at least と同意である。

本問の場合、後続するのが「量」を表す単語ではないので判断に迷うかもしれないが、「劣らない・同等の」の意味になるイ. no less than が設問文「まぎれもなく～だった」を正確に表しており、正解。

3. big traffic は不自然な表現で一般的に heavy traffic が好まれる。この時点でイかウに絞ることができる。busy は「忙しい」の意味に加えて、「(道などが) 混んでいる」状態を表すときにも使う。イに含まれている during は前置詞で名詞(句)が直後に来る。you cross it などの文を持つてくることはできないのでイは不正解。ウの in crossing it は, in *doing* 「～する際に」という表現が使用されていて文法的に正しい。

4. be seen to *do* で「～するのを見られる」という受動態表現になる。よって, to が含まれず seen enter となっているイとエは間違いである。次に seem の用法であるが, A(具体的な人・物) seem to *do* 「Aは～する／であるように見える」または A seem to have *done* 「Aは～した／であったように見える」という表現は正しいが, A seem that … という表現はしない。主語を it にして it seems that … とするのは正しい。以上の理由から正解はア。

5. まず問題となるのが who have survived か who has survived のどちらを選ぶかということだ。ここで使われている関係代名詞 who は the visitors を先行詞にとるわけではなく, 日本文から「(旅行者のうちの)ただ一人」という意味をくみ, the only one of the visitors を先行詞にとる。the only one は単数なのでそれに続く関係詞節は who has survived となる。この時点で複数の形をとる who have survived になっているアとエは除外する。エに関しては one of … の前に the をつける, という点でも不自然。ウにおいては, 「火事で助かった」という事実を表すのに過去完了形を使用するのは不自然である。また, one of the only visitors と

いう語順も正しくない。よってイが正解。

6. 「A も B も～でない」という表現を理解しているかを問う問題。A の not both A and B を主語にする文は不自然である。イは either A or B が主語になる場合、それに続く動詞は B に合わせるのが普通。よって Either John or I am not … としなければならない。ウとエは neither を使用しているが、neither A nor B としなければならないので or を使用しているウは正しくない。よって、エが正解。ちなみに neither A nor B が主語になる場合は either 同様、後続する動詞は原則として B に合わせる。よって Neither John nor I am responsible … となっている。

7. まず Who don't you …? か Don't you know …? の 2 択に絞る。「だれがここに来たか知らない?」は、「はい」か「いいえ」で答えられる。よって do から始まる疑問文を使う。ここでウかエに絞られる。次に、Don't you ~? といった「～じゃない?」「～しない?」といったいわゆる「否定疑問文」は日本人英語学習者が応答する上で間違いやすいので注意が必要である。結論から言うと否定疑問文で聞かれても普通の疑問文で聞かれても答え方は同じである。例えば Don't you know? 「知らないの?」と聞かれようと Do you know? 「知ってるの?」と聞かれようと、知っているのであれば Yes, I do. 知らなければ No, I don't. と答える。日本語に引きずられて「うん、知らない」「いや、知ってる」を直訳して Yes, I don't. あるいは No, I do. と言わないように気をつけなくてはならない。よって正解はウである。

④ 解答 1ーイ 2ーア 3ーエ 4ーウ 5ーイ 6ーア
7ーウ

解説

1. 「ロバートソンさんは、人気雑誌の編集者であり出版者で、ミーティングに参加する予定であり、さらに多くの人々がそれに参加するでしょう」

イが誤り。カンマで挟まれている the editor and publisher … の部分は Mr. Robertson と同格関係にあり、彼についての詳しい説明がなされている。よって動詞は主語である Mr. Robertson (= he) に合わせて is でなくてはならない。take part in A 「A に参加する」 同じ意味の participate

in A もセットで覚えよう。

2. 「ジャッジやトラウトと比べると、スペンサーは彼らほど上手な野球選手ではない」

アが誤りである。文頭の Comparing with … は分詞構文であるが、接続詞を用いて書き換えると、If he (= Spencer) is compared with Judge and Trout, Spencer is not … となる。従属節と主節の主語は同じ (Spencer) であるので、分詞構文で表現するのであれば (Being) Compared with Judge and Trout, Spencer is not … としなければならない。

3. 「妻と子どもが買い物するために出かけている間、ジョンは友達に手紙を書きながら自分の部屋にいた」

エが誤りである。～, *doing* … で分詞構文を作ることができる。分詞構文の意味はいくつかあるが、ここでは付帯状況「～しながら」の意味。よって written を writing に換える。

4. 「ニュースによれば、それはこれまでに私たちがこの街で経験した最悪の事故だったと、言われている」

ウが誤りである。baddest という単語は俗語であり、bad の最上級は worst が正しい。according to A 「A によると」は絶対に覚えておきたい。

5. 「学生は今日できることを決して明日まで先延ばしにしてはいけない」

イが誤りである。by を until (または till) に換える。by は「～までに」という締め切りを表す意味で使う。例：I need to finish this homework by tomorrow. 「明日までにこの宿題を終わらせないといけない」一方で、until は「～までずっと」という継続の意を表す。この問いで until が使用されるのは、「今日できることを明日までずっと先延ばしにしない」という継続的意味を含んでいるからである。

6. 「彼女が住んでいる家は 19 世紀初頭に建てられたと言われている」

アが誤り。where は関係副詞であり、後ろには完全な文が続く。よって she has lived in を she has lived に換える。ちなみに、関係代名詞を使用した The house which she lived in … であれば正しい表現となる。

7. 「先生ととても熱心に勉強した後、私は少しドイツ語を読めるようになった」

ウが誤りである。「～するようになる」を意味するのに become to *do*

という表現は正しくない。come to *do* という表現を使用する。